



### 当日タイムライン



14:30 新こども公園部長 就任



15:00 舟橋中学校吹奏楽部



15:30 チア TINKS



16:00 F2



16:30 竹内バンド



17:00 池端愛・黒田忍



17:30 バルーンアーティスト mio



18:00 家族's



18:30 富山大学ジャズ研究会

# SAKURA meets the LIVE in ふなはし 2025 特集号

令和7年4月5日(土)に「SAKURA meets the LIVE in ふなはし 2025」が開催されました。さくらミーツは、来場者数が1000人近い人気イベント。今年も多くの方が足を運び、ステージパフォーマンスやキッチンカー、体験型企画に笑顔を咲かせました。今回は特集号として、イベントに関わる運営スタッフや出演者にお話をお聞きしました。

— 初開催の反響はいかがでしたか？  
松田 正確な来場者数はわかりませんが、300人くらい来られていたと思います。村の人口の1割なので、かなり多いのかなと。  
工藤 実は平成26年より前に、役場単独でイベントを開催したことがあったのですが、そのときは人が集まらず…。お堅い企画だったのが原因かもしれません。まちづくり協議

会とは、今のようなライブイベントではなく、ファイアーパフォーマンスや、キャンダルを作って灯すという企画でした。平成25年に初回となるはずでしたが、悪天候で中止となり、平成26年に初開催となりました。  
松田 私たちは毎年8月に開催している「ふなはしまつり」の企画・運営をやっています。ふなはしまつりは、基本的に舟橋村に住んでいる方を出演者とする「村民の祭」なので、さくらミーツの方は、縛りのない企画として、村の外からも出演者を募ろうということに、楽しそうな人たち、協力してくれる人たちに声をかけ、出演してもらったことになりました。

— さくらミーツが始まった経緯を教えてください。  
工藤 平成25年にオレンジパークふなはしの活性化を目的として、何かイベントをやろうという企画が立ち上がりました。でも、役場だけでは何をしたらいいかわからない。そこで、「ふなはしまつりまちづくり協議会」に協力をお願いしました。  
松田 私は毎年8月に開催している「ふなはしまつり」の企画・運営をやっています。ふなはしまつりは、基本的に舟橋村に住んでいる方を出演者とする「村民の祭」なので、さくらミーツの方は、縛りのない企画として、村の外からも出演者を募ろうということに、楽しそうな人たち、協力してくれる人たちに声をかけ、出演してもらったことになりました。

— 今年も多くの来場者さんが足を運びました。今年も多くの来場者さんが足を運び、ステージパフォーマンスやキッチンカー、体験型企画に笑顔を咲かせました。今年も多くの方が足を運び、ステージパフォーマンスやキッチンカー、体験型企画に笑顔を咲かせました。今年も多くの方が足を運び、ステージパフォーマンスやキッチンカー、体験型企画に笑顔を咲かせました。

ふなはしまつりまちづくり協議会 松田さん



## 「伝統がない」だからこそ「自由につくれる」

— 村の特徴を生かした企画なのですね。  
松田 以前、祭を企画するにあたり、村の歴史を調べたのですが、なんと、舟橋村には「祭の根拠になるような歴史がない」ことがわかりました。  
工藤 一般的に、祭は地域の歴史と結びついていますよね。でも舟橋村には、そういうものがない。松田 20年ほど前に富山大学に協力してもらい、祭の在り方を検討しましたが、「みんなで楽しく集まれる場にして」という結論になりました。何にも縛られず、自由に企画できるのが舟橋村の祭の特徴だと思います。

— 祭は、同級生との思い出を作る場でもありますね。夏の「ふなはしまつり」でも体験型の企画を重視しているとのこと。  
松田 まちづくり協議会として活動する中で「子供たちに思い出を」という気持ちがあります。祭に有名なゲストを呼ぶのも良いと思うのですが、私は来場者の子供たちが自ら参加して、楽しめる企画をつくりたい。舟橋村は小さな村で、小中学校も一つしかない。だから、皆が知り合っていて、参加型のステージアトラクションにも、近くにその場で参加できる。そういう村ならではの環境を生かして、子供たちの記憶に残る体験をつくれたらと思っています。ただ毎年、内容を考えるのは大変なのですが、(笑)

— 祭は、同級生との思い出を作る場でもありますね。夏の「ふなはしまつり」でも体験型の企画を重視しているとのこと。  
松田 まちづくり協議会として活動する中で「子供たちに思い出を」という気持ちがあります。祭に有名なゲストを呼ぶのも良いと思うのですが、私は来場者の子供たちが自ら参加して、楽しめる企画をつくりたい。舟橋村は小さな村で、小中学校も一つしかない。だから、皆が知り合っていて、参加型のステージアトラクションにも、近くにその場で参加できる。そういう村ならではの環境を生かして、子供たちの記憶に残る体験をつくれたらと思っています。ただ毎年、内容を考えるのは大変なのですが、(笑)

— 祭は、同級生との思い出を作る場でもありますね。夏の「ふなはしまつり」でも体験型の企画を重視しているとのこと。  
松田 まちづくり協議会として活動する中で「子供たちに思い出を」という気持ちがあります。祭に有名なゲストを呼ぶのも良いと思うのですが、私は来場者の子供たちが自ら参加して、楽しめる企画をつくりたい。舟橋村は小さな村で、小中学校も一つしかない。だから、皆が知り合っていて、参加型のステージアトラクションにも、近くにその場で参加できる。そういう村ならではの環境を生かして、子供たちの記憶に残る体験をつくれたらと思っています。ただ毎年、内容を考えるのは大変なのですが、(笑)



舟橋村役場 工藤主任(取材当時)

— 以前、祭を企画するにあたり、村の歴史を調べたのですが、なんと、舟橋村には「祭の根拠になるような歴史がない」ことがわかりました。  
工藤 一般的に、祭は地域の歴史と結びついていますよね。でも舟橋村には、そういうものがない。松田 20年ほど前に富山大学に協力してもらい、祭の在り方を検討しましたが、「みんなで楽しく集まれる場にして」という結論になりました。何にも縛られず、自由に企画できるのが舟橋村の祭の特徴だと思います。  
松田 以前、祭を企画するにあたり、村の歴史を調べたのですが、なんと、舟橋村には「祭の根拠になるような歴史がない」ことがわかりました。  
工藤 一般的に、祭は地域の歴史と結びついていますよね。でも舟橋村には、そういうものがない。松田 20年ほど前に富山大学に協力してもらい、祭の在り方を検討しましたが、「みんなで楽しく集まれる場にして」という結論になりました。何にも縛られず、自由に企画できるのが舟橋村の祭の特徴だと思います。

村在住の出演者にも、さくらミーツへの思いをお聞きしました！

